

選考過程は「非開示」…異例の逆転選出の国立大学長 “対話重視”の考えも、求められる学内融和

2/7(土) 9:00 配信 12



新潟日報



新潟大の学長に就任した染矢俊幸氏
＝新潟市中央区の駅南キャンパスと
きめいと

新潟大学の第17代学長に1日就任した染矢俊幸氏（67）が新潟日報社の取材に応じた。牛木辰男前学長を支えた執行部の一員として牛木氏が掲げた大学改革を進める方針で、「地域に根ざし、次の時代を切り開く存在であり続けるよう責任を果たしていく」と抱負を語った。組織運営では対話や情報共有に力を注ぐ考えを示した。

【表】教職員が投じた意向投票の結果

大分県出身の染矢氏は東京大卒業後、滋賀医科大を経て、1998年から新潟大教授。医学部長を務め、24年から新潟大理事・副学長として組織運営に携わった。精神科医としては米国の精神疾患の診断体系導入やオーダーメイド医療の研究などに力を入れてきた。

学長選出前に行われた教職員による意向投票では、自身を含め執行部の候補者が1位にならなかった。この結果に「執行部のこうした成果がうまく伝わっていない」と感じ、新たに広報担当理事を置いた。「対話や情報共有を大切に、判断の背景も説明するなど納得感のある意思決定を行うことで、見える運営をしていきたい」とした。

◆選考過程の不透明さに反発も

新潟大の学長選考を巡っては、教職員が投じた意向投票で次点だった染矢俊幸氏（67）が最終的に新学長に選出され、教職員が反発するという異例の経緯をたどった。現場と執行部との考え方の乖離（かいり）や情報共有不足が今回の事態を招いたとの指摘もあり、大学運営を委ねられる染矢氏は学内融和を迫られそうだ。

学長選考では染矢氏のほか、当時脳研究所長だった小野寺理氏（63）と当時理事で副学長だった川端和重氏（69）の3人が候補者となった。昨年8月に行われた教職員の意向投票では小野寺氏が染矢氏の2倍超の得票で圧勝したが、9月の学長選考・監察会議では学内外の委員9人が染矢氏を選出した。

近年の学長選考は教職員の意向投票の結果通りになっており、教職員有志や人文学部、工学部などの教授会が選考会議に詳しい説明を求める声明や決議、要望を出す事態となった。

問題視されたのは選考過程の不透明さだ。昨年12月末の記者会見で、新潟大学職員組

合委員長の酒匂宏樹工学部准教授（43）は「新潟大学は広く社会に支えられて成り立っている公的な機関だ。重要な意思決定の情報は私的に扱われてはいけない」と反発した。

関係者によると、1月末に選考会議が開かれたが、組合側が要望した議事録や議決票数の開示について「要望には応じられない」との意見でまとまったという。

選考会議へ声明を出した教職員有志の一人で人文学部の原直史教授（63）は「これまで現場の声が反映されていなかったという思いがある。教職員や学生の声聞く大学運営をしてほしい」と求める。

🕒 記事に関する報告

この記事はいかがでしたか？
リアクションで支援しよう

21  学びがある

33  わかりやすい

25  新しい視点

【関連記事】

[\[人事\]新潟大学（26年2月1日付）学長、理事・副学長など](#)

[\[新潟大学・新学長選考\]過程の不透明さを指摘「票数開示や判断理由の説明を」…職員組合が決議](#)

[\[新潟大学・新学長選考\] 職員組合が「選考過程の具体的説明」求める声明発表【全文掲載】](#)
「大学の自治が損なわれていくことを深く憂慮」

[\[新潟大学・新学長選考\]染矢俊幸氏「逆転」選出、意向投票とねじれ生じる異例の事態…学内の分断は必至](#)

[新潟大学新学長に理事で副学長の染矢俊幸氏を選出「学生一人一人の可能性引き出す」](#)

最終更新: 2/7(土) 9:00

新潟日報